

『現代語でさらりと読む茶の古典 - 茶の本 = The Book of Tea』

岡倉天心 [原著]、田中秀隆著 / 淡交社

技大が文部科学省のスーパーグローバル大学に選定されたということはニュース等で取り上げられているので学生の諸君も知っているだろう。また、スーパーグローバル大学のことを考えなくとも、今後（現在でも）、地球規模での展開ができる技術でなければ評価されることはないだろう。したがって、技大の学生諸君にとっての活躍の場は日本に留まることなく、地球全体になる。グローバルに通用する技術は、地球全体どこでも通用するようなものであるが、そこで活躍するであろう技術者は、各々の国の文化を尊重した国際感覚を持ち合わせており、当然、自国の文化を理解し説明できる国際人でなければならないと私は信じている。さて、今回紹介するのは、岡倉天心が明治39年にニューヨークで出版した『The Book of Tea』の最近出版された現代語訳である。岡倉天心は今更紹介するまでも無いが、フェノロサとともに明治の混乱した国際化の中で日本文化を深く理解し、東京美術学校（現在の東京芸大）の設立に係り、ボストン美術館を中心に日本文化の発信に尽力した、真の国際人である。『The Book of Tea』は、欧米人に向けて日本の文化のすばらしさと日本が高度な文化国家であることを知らしめるために書かれたものである。今でも内容は全く色あせていない。『The Book of Tea』は出版後、直ぐに訳され、岩波文庫で昭和4年の訳が最初であり、現在でも岩波文庫で読むことができる。『The Book of Tea』は、『茶の本』として多くの訳本が出ており、特に、ここ数年、多くの新訳が出ている。このブックガイドで薦めているのは、その中の一冊であるが、他のものや英語の原本や対訳本も手に入るので比較してみるのも良い。なお、原本の署名はKakuzo Okakuraと岡倉天心の本名である岡倉覚三と成っているので、訳本も「覚三」とより知られている「天心」の2つの著者がある。

さて、私がこの本と出会ったのは全くの偶然であった。予約していた新幹線の乗車時間に少し時間があつたので本屋で時間をつぶしていたときに見つけたものである。私はよく、文化・歴史・食に関するもの本や雑誌で時間つぶしをしている。『茶の本』は、茶道の紹介のようでそうではなく、ましてや、茶道の所作や手前などを説明したものではない。茶道を通して日本の文化や精神、歴史的な連続性を書いているものである。したがって、茶道に興味のないものであってもお

もしろく読むことができる。もちろん、茶道に関心があるものは、よりおもしろく読むことができるだろう。斯く言う私は、茶道を正式には習ったことはないが、私の生まれ育った地域は日常的に抹茶を飲む習慣があり、今でも好きなように茶をいただいている。ちなみ、茶碗をまわさないことで知られている流派が私の地元では盛んである。

話を、紹介する本に戻そう。紹介した本は、解説が長い。天心の『茶の本』とほぼ同量の解説がある。そして、その解説もおもしろい。それが、この本を紹介する所以である。訳者を少し紹介しておこう。訳者は、茶人としては、田中仙堂として知られている方で、大日本茶道学会の副会長である。大日本茶道学会は、明治時代、当時の茶道に疑問を持った茶人たちが、「茶道本来無流儀」などの標語を掲げて作ったものであり、現在では一つの大きな「流派」に成っている。設立の過程から「流派」と呼ぶのは問題があるかもしれないが。なお、私は大日本茶道学会の回し者でなければ、前述の地元の流派もそれとは異なる。明治時代は茶道にとっても大きな変革の時代で、既存の流派にも大きな変革が行われると共に新たな考え（例えば前述の大日本茶道学会や小林一三に代表される新茶人等による新茶道など）が勃興し、天心の『茶の本』には（新茶道には触れられていないが）、そのような時代背景の中で書かれたものであることも考えて、捉えると別の楽しみ方もあるだろう。この点においても、田中秀隆氏の解説で読むというのは理に合ったものである。また、余談ではあるが、この本は、裏千家の出版社から出ている。天心の本は、流派にとられないものであるが、訳者と出版元が異なる流派であるのも面白いと思っている。

ともあれ、茶道に興味があるもの、あるいは実際に茶道に親しんでいるものでも目から鱗が取れるような切り口で書かれており、一読の価値があり、茶道に興味があるなしにかかわらず、国際化とはなにかを考える一助になるだろう。一度、手にとって読んでみることをお勧めする。

執筆者紹介

鈴木 達也

原子力システム安全工学専攻教授。専門領域は、核燃料サイクル工学、核・放射化学。

【書名】 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『現代語でさらりと読む茶の古典－茶の本＝The Book of Tea』岡倉天心原著、田中秀隆著 淡交社 2013年 1,296円

[ブックガイド目次へ](#)